

# 南國土佐を後にして

なんごくーーとーさーを

ひとこの高知新聞に、南国土佐を後にして、の原作者が二人発表されて、話題をなげたが、戦後いつのまにか有名になつたこの歌が、中支戦線に活躍した成の鯨六八四部隊(歩兵第二三六連隊)で唄われていたものであつたことを知らない人も多かつたと思う。

八四部隊(歩兵第二三六連隊)で唄われていたものであつたことを知らない人も多かつたと思う。

いよいよ出します。故郷の友が

門出に唄つたよさしい節を

きようも明るいがつい

い戦斗が毎日続けれ

た頃のことである。

その日は未明から我が部隊

の猛烈な攻撃にもかゝわら

ず中國軍は頑強に陣地を死守して一歩もゆきらず松のまばらな赤土の丘陵はギラ

ギラ光る強烈な夏の太陽のもとに落下する砲弾の匂いが飛んでいた。私の分隊は陸線に歩兵砲(四一式山砲)を擡え小銃中隊の援護

射撃を続けていたが小隊長

「打方骨子」

し、習おうとしなかつたが

ヨサコイぶしと兵隊(南国土佐を後にして)だけはおぼえたかつたらしい。

『今夜戦斗がワソラ(終了)

になつたら一諸に唄うか』

といつたらよしたのねぞ

とだめおしてわざかに水の残った水筒をサツクから

はすして差出した。そのと

をうびやつと戦斗は小休止の状態になつた。

夕方になつて眼の前の高地に小銃中隊が突撃してこれ

はまだおもてに上り小体を

はだめおしてわざかに水の残った水筒をサツクから

はすして差出した。そのと

をうびやつと戦斗は小休止の状態になつた。

夕方になつて眼の前の高地に小銃中隊が突撃してこれ